

☼ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ☼  
～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

## 中学校の読書活動の紹介

9月10日6校時に開催された、南区の福岡市立長丘中学校(全校生徒642名)の読書集会の様子と玄関前の展示棚を活用した本の紹介をお知らせします。

### 《読書集会》

この日はとても暑く、体育館の4隅では大型の扇風機が回っていました。5校時が終わると、体育館に全校生徒が静かに入場し、集会開始までだれ一人後ろを向いたりせず、静かに始まりを待っていました。



(入場して静かに開始を待つ生徒)



(文化委員長の始めの言葉)

#### 読書集会の流れ 始めの言葉

- 1 ビブリオバトル
  - 2 学校司書のブックトーク
  - 3 読書クイズ
  - 4 多読生徒の表彰
  - 5 チャンプ本の発表
- 終わりの言葉

### ○ ビブリオバトル

各学年の文化委員が、一人3分間で、3年生から順にお薦め本を紹介しました。

3年生は「ラプラスの魔女」、2年生は「意味がわかると怖い話」、1年生は「西遊記」でした。2年生は、声の調子や高さを変えて本を読み、一つ一つの話が短いので長い文章が嫌な人でも読めると紹介していました。1年生は、本には様々な人に前向きに生きてほしいというメッセージが込められていることや本から再発見の喜びがあると紹介していました。チャンプ本は、「意味がわかると怖い話」(藤白圭著、河出書房新社)でした。



(ビブリオバトルのお薦め本の紹介)



(お薦め本の紹介をしっかりと聞く生徒)



(真剣に考え投票用紙に記入)

## ○ ブックトーク

学校司書の先生が、「わたしが少女型ロボットだったころ」「貧困脱出マニュアル」「マーク 記号」など6冊の本の表紙を壇上のスクリーンに映しながら紹介しました。

「貧困脱出マニュアル」では、「貧困を脱出するためのスキルが書かれています。全部読めないと思う人は、目次を見て気になったところを読んで、どんな大人になるか考える参考にしてください。」と、話をしていました。詩集やL1ブックの紹介もあったので、小説などの本が苦手な生徒も本に興味を持つことができ、読書につながるだろうと思いました。



(学校司書のブックトーク)



(ブックトークを聞く全校生徒)

## ○ 読書クイズ

新・旧文化委員長による読書クイズが3問ありました。「『天気の子』を書いた小説家の名前は、新海誠さんです。その人の別の小説に「秒速〇センチメートル」という作品があります。さて、〇に入る数は？」という、とても難しい問題でしたが、数人の生徒が挙手をしていました。いろいろな作家や作品にも精通していると感心しました。



(スクリーンに問題を映しながら読書クイズを出題する文化委員長)



(読書クイズに答える生徒)



## ○ 多読生徒の表彰

ビブリオバトル優勝者の表彰と、半年の間にたくさん本を読んだ上位3人の表彰がありました。

名前を呼ばれると壇上にあがり、拍手の中ビブリオバトル優勝者は文化委員長から、本をたくさん読んだ上位3人は、副委員長から多読者賞の表彰状を受け取っていました。一番本を読んでいた生徒は64冊も読んでいて、学校の読書活動の高まりを感じました。



(ビブリオバトル優勝者の表彰)



(多読者賞の表彰)

## ○ 読書集会に参加して

ビブリオバトルのチャンプ本の決定では、短時間で正確な投票数をだすために、票の数え方や集計のやり方を練習し、ビブリオバトルの出場者は、夏休みの間に選本し、何度もリハーサルをして本番に備えたそうです。

学校司書の先生が、限られた勤務時間や日数の中で多くの生徒に本への興味をもってもらうため、多様な本を紹介されたことにも、頭がさがりました。

長机や椅子出しなどの会場準備は、女子バスケットボール部が担当していましたし、担任外の先生も集会に参加しておられ、全校一丸となって読書活動に取り組んでいることが強く感じられました。



(集会が終わったあとの、文化委員会の振り返り)

## 《玄関前の展示棚》

展示棚には、「今月のおすすめ」と表示して、川端康成や与謝野晶子などの作家の写真とその本の表紙が見えるように展示しています。

また、「文豪クイズ」は、文豪の顔を影で描き、作品に関する問題を色画用紙に書いて、文豪の名前を当てるクイズをしています。5問目の問題では、『鼻』トイフ作品が夏目先生カラトテモホメラレマシタ。ミナサンハ・・・」と書いています。



(玄関前の展示棚)



(作家の写真とその作品の表紙を見せて展示)



(色画用紙に書かれた「文豪クイズ」)

## 12月生まれの文学者



### 野中 柊（のなか ひいらぎ）と「パンダのポンポンシリーズ」

1964年12月5日 新潟県生まれ

三人姉妹の末っ子だった野中氏は、小学校に入学する前からアンデルセンなどの童話全集を読んでいた、誕生日のプレゼントも本でした。小学生の頃は、一人遊びが好きで本ばかり読み、卒業文集には「童話作家になりたい」と書いたそうです。

立教大学在学中は、全く小説を書いていませんでしたが、なにか行動を起こすときには、「これは作家になるために必要なこと？役に立つこと？」と自分自身に問いかけていました。

就職はしなくていいと考え就職活動を全くせず、大学を卒業すると、大手銀行の外為部門で派遣社員として働いた後、アメリカと日本との行ったり来たりを繰り返し、結婚してアメリカに住んで、1年ほど経って「ヨモギ・アイス」（海燕新人文学賞）で小説家デビューしました。

小説を書くきっかけは、結婚して生活が苦しかったからで、新人賞を受賞すれば賞金が入り、本が出版されると印税が入ると思ったからでした。童話を書くようになったのは、野中氏が書いた大人向けシリーズを読んだ童話編集者が「子ども向けにもなにか作品を書いては」と声をかけたからでした。

「パンダのポンポン」は、食いしん坊のパンダのcockのかわいい話です。すべての話にサンドイッチやオムレツなど食べ物がでてきます。

野中氏の小説は「本屋さんのルビねこ」「ダリア」など、童話・絵本は、「ヤマネコとウミネコ」「赤い実かがやく」などあり、童話を書くときには、作家として子どもたちが幸福な気持ちを味わう手伝いをしたいと思っているそうです。

### 大崎 善生（おおさき よしお）と「聖の青春」

1957年12月11日 北海道生まれ

大崎氏の実家の隣には作家の原田康子氏が住んでおり、なんとなく憧れがあったので、小学校の5・6年の時は、将来作家になりたいと思い、いろいろな本を読んでいた。

大学進学で東京に出てきてからは、昼から夜にかけては将棋センターに通い将棋を指し、夜中に世界文学などいろいろな本を読んでは、小説を書くという生活でした。しかし、村上春樹氏の作品にショックを受け小説家になることをあきらめ、ほとんど読まなくなりました。

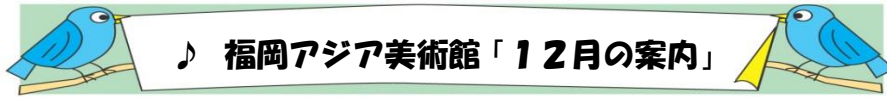
大学卒業後は日本将棋連盟に就職し、雑誌編集部門に移った後、1991年「将棋連盟」の編集長になりました。その後、2000年に「聖の青春」で小説家デビューしました。

「聖の青春」（新潮学芸賞）は、「東の羽生、西の村山」と称されながら29歳で早世した棋士、村山<sup>きよし</sup>聖九段の生涯を描いています。本作品を執筆予定だった作家が病気で急逝したため、森信雄七段が、村山九段ととても親交が深かった大崎氏を候補に挙げたことで、執筆することになったそうです。

大崎氏は長い編集者経験から、小説を完成させるのは読者であり、自分がどれぐらいの読者を獲得しているのか、どんな人がどういう風に読んでいるのかがとても大事なことだと思っているため、「野性時代」の人気調査や読者カード、インターネットの書評などかなり気にしてよく見るそうです。

大崎氏の作品は、「将棋の子」（講談社ノンフィクション賞）、「パイロットフィッシュ」（吉川英治文学新人賞）などあります。





## ♪ 福岡アジア美術館「12月の案内」

\*\*\*\*

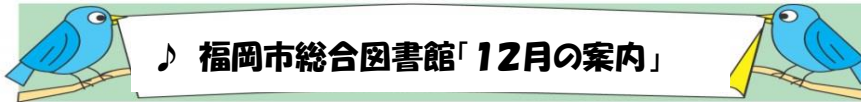


### \* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

8日(日), 10日(火), 22日(日), 24日(火)

・時間 11:30~12:00, 13:00~13:30

・場所 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



## ♪ 福岡市総合図書館「12月の案内」

\*\*\*\*\*



### \* 毎月のおはなし会

1日(日), 7日(土), 8日(日)

14日(土), 15日(日), 21日(土)

・時間 土曜日: 7日, 14日, 21日

14:10~14:25 赤ちゃん向けおはなし会

14:30~14:50 幼児向けおはなし会

21日

14:30~15:00 小学生向け以上のおはなし会

日曜日: 14:30~15:00 幼児向けおはなし会

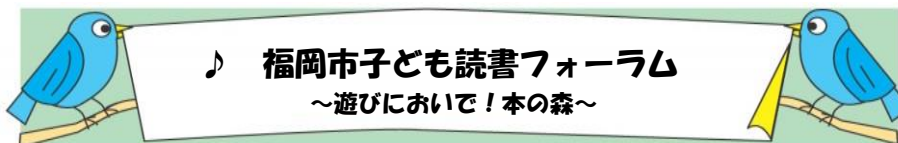
15:15~15:45 小学生向けおはなし会

・場所 「こども図書館 おはなしの家」

### \* クリスマス特別おはなし会

・日時 12月22日(日) 14:00~15:10

・場所 3階第1会議室, 第2会議室



## ♪ 福岡市子ども読書フォーラム

~遊びにおいて!本の森~

おはなし会や読み聞かせだけでなく、しおりづくり、ビブリオバトル、なりきり絵本キャラなどの催し、POPの掲示があります。

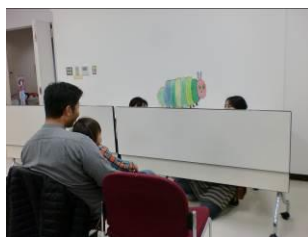
・日時 令和元年11月30日(土) 10:30~16:00

・場所 福岡市男女共同参画推進センター アミカス

(福岡市南区高宮3-3-1 西鉄天神大牟田線高宮駅西口すぐ)

※福岡市子ども読書フォーラムは、子どもが本に親しむきっかけづくりのひとつとして、平成17年度から毎年実施されています。

## 《昨年度の様子》



(福岡市立小学校図書館教育研究  
委員会のペーパーサート体験)



(福岡市立中学校の読み聞かせ)



(ブックスタートボランティアの  
紙芝居)



(学校図書館よみきかせボランティア  
ネットワークの絵本の展示)

福岡市子ども読書フォーラム

検索



H30 子ども読書フォーラム

J:COM チャンネル福岡・北九州・熊本・下関より

## ☆ あとがき

令和最初の読書フォーラムでは、参加する中学生をはじめ、読み聞かせ団体などが、来場者にいろいろ楽しんでもらうため準備をしています。昨年は、約520人が来場し、そのアンケートで、フォーラムの感想として、92%が「とてもよい」もしくは「よい」と回答しています。

今年も、おはなし会や体験工作、なりきりキャラなど実施されます。とても楽しいフォーラムですので、多くの来場者があることを期待しています。

今月紹介した大崎善生氏は、小学校の夏休みの宿題で読書感想文が出された時、自分で自転車を盗まれた少年の話を書いて本を作り、その感想文を書いて提出して先生には怒られたそうです。また、大崎氏が初めて書いた「聖の青春」は、午前1時から午前5時までの静まり返った深夜に執筆し、5月から半年ほどで書き終えたそうです。最初編集者から提示された枚数は450枚でしたが、書き終えてみると原稿は700枚にも達しており、書き続けている間、村山九段と遊んでいるような楽しく幸せな気分だったそうです。

発行：福岡市教育委員会 生涯学習課

電話：092-711-4655 FAX：092-733-5538

## 図書館員のひみつの本棚 第163回

今月は魔女の本のご紹介です。

### 『魔女に会った』

角野 栄子／文・写真 みや こうせい／写真 福音館書店 1993年 1300円(税抜)

#### <お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年—— 中学年—— 高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆  
高 校—— 一 般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

#### <本の紹介>

『魔女の宅急便』の著者が会った魔女たちが紹介された本です。

2月23日の「魔女の日」にドイツで行われる「ファスナハト」というお祭りや、同じくドイツにあるブロッケン山の近くの「ワルプルギスの祭り」では、町の人達が魔女の仮面や仮装を身につけてお祭りに参加します。ベルギーの「猫祭り」の最後を飾るのは「魔女の火刑」。魔女のお人形を燃やすのです。ルーマニアには今でも本物の魔女がいて、著者の角野さんはその魔女とひとときを過ごします。

長い歴史の中で、人間に敬われたり、疎まれたりしてきた魔女。著者はこの本の終わりにこう書いています。「長い間、人々は何かにつけて魔女に願いをたくしてきました。その願いがやさしいものだったとき魔女もやさしい顔をしていたような気がします。願いがみにくいものだったとき、魔女はおそろしい表情をうかべて、火の中にくずれていったように思えるのです。」

#### <子どもに手渡す時のポイント>

「たくさんのふしぎ傑作集」の1冊ですが、高学年から中学生が楽しめる本だと思います。先日、中学校1年生でブックトークをしましたが、そのくらいの年齢になると、魔女がどのような歴史を辿ってきたかの知識も少しあるらしく、子どもたちは興味をもって聞いてくれました。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

